



妙見祭の魅力紹介 - 笠鉾松大解剖! - (7月3日まで展示)

松の造り物は、大宰府に左遷された菅原道真すがわらのみちざねにちなんである。道真じていが自邸の梅のことを「東風吹かば・・・」と詠んだことは有名じゃな。歌に詠まれた梅は大宰府まで飛んで行った(飛梅とびうめ)んじゃが、歌に詠まれなかった桜は、がっかりして枯れてしまったんじゃと。その話を聞いた道真が、松はつれないという歌を詠むと松が後から追いかけてきたそうじゃ。追いかけてきた松、追い松おいまつ…老松かさ(長生きの松)。笠鉾松は「老松」なんじゃよ。なんだかダジャレみたいだが、傘とサギで「カササギ」とか祭りの飾りには言葉遊びのようなものもあるんじゃ。



話が長くなったが、笠鉾松の飾りは、松にかわる前は「ク〇ヤク」だったり、今の笠鉾は六角形じゃがその前は「■角形」だったりといろんなヒミツが隠されておるんじゃよ。ぜひ、お祭りでんでん館2階の展示室で確認してくれたまえ。待っておるぞ。

今月の水引幕

くろもんしゆすあいわ ずいきもようぬい
黒紋襦子地巖に波瑞亀模様繡水引幕

でんでん館では、毎月1枚ずつ笠鉾の水引幕を紹介しています



笠鉾蘇鉄そてつの水引幕です。令和2年3月に完成しましたが、妙見祭が2年連続で中止となったため、まだ妙見祭では使われていません。これまで使われていた水引幕は、明治32年(1899)に制作したものを令和元年(2019)まで120年間も使用していました。古い幕の裏は、町の人たちが修理をした糸で埋め尽くされていて、笠鉾が町の宝であることを感じるができます。

笠鉾蘇鉄は、天下泰平てんかたいへいを祝うめでた尽くしの飾りでいっぱいです。水引幕も長生きの象徴しやうちやうでもある亀が刺繍ししゅうされています。

わた綿わたを入れて凹凸おうとつを表現したり、亀の目に吹きガラスをはめ込んだりと手が込んでるわ。ぜひ近くでじっくり見なきゃ。

でんでん館の/
こも見てミテ!

お祭りでんでん館は、令和3年度のくまもとアートポリス推進賞と熊本県木材利用優良施設コンクール熊本県賞を受賞しました。

当施設を設計されたのは、平田晃久建築設計事務所ひらたあきひさ(東京都港区)の平田晃久さんです。祭りの躍動感を感じさせる湾曲わんきよくした木造屋根の折り重なる梁はりと桁けたの圧倒的迫力や近隣の八代城跡、博物館など周辺とのつながりを意識した外部空間設計などが高く評価されました。館内の展示だけでなく、建物もお祭りでんでん館の魅力の一つです。ぜひ、注目してご覧ください。